

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任		兼任
○			服装造形論 I A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服全般の基礎知識を習得する。(縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察)</li> <li>・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。</li> <li>・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。</li> </ul>	1・通年	120	4	○			○		○		
○			服装造形デザイン I A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレーピングの基礎知識を習得する。(ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング)</li> <li>1 基礎 I (一般知識・縫い方の基礎) 基礎縫いAミシン縫い・B手縫い</li> <li>2 体型研究 身頃原型・スカート原型 (1/4・実物作図)・トワル製作・試着補正・レポート</li> <li>3 スカート I デザイン・パターン・実物製作・レポート</li> </ul>	1・前期	120	4			○	○			○	
○			服装造形パターンメイキング I A	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 シャツブラウス I デザイン・パターン・実物製作・レポート</li> <li>6 子供服 デザイン・パターン・実物製作・レポート</li> <li>7 バザー作品 文化祭バザー作品実物製作・検品・販売</li> <li>8 スカート II デザイン・パターン・実物製作・レポート</li> <li>9 ジャケット I デザイン・パターン・実物製作・レポート</li> <li>10 ワンピースドレス I デザイン・パターン・実物製作・レポート</li> <li>11 パンツ I デザイン・パターン・実物製作・レポート</li> </ul>	1・前期	120	4			○	○			○	
○			服装造形ソーイング I A	<ul style="list-style-type: none"> <li>12 ドレーピング基礎 (文化ボディ) 胸ぐせダーツのバリエーション (アームホールダーツ)</li> </ul>	1・前期	210	7			○	○			○	

○			量産技術概論・実習	<p>アパレル製品の生産について関心を持たせ、一品作りと量産の違いについて認識させること目標とする。</p> <p>実習として工業用ミシン・アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法を習得する。</p> <p>後期には生産指示書類の見方に関する講義や特殊機器見学を行い工業生産に関する理解を深める。</p>	1・通年	30	1	○	△	○			○
---	--	--	-----------	---	------	----	---	---	---	---	--	--	---

(2/4)

### 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
○			自由研究 I A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。</li> <li>・ 各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。</li> </ul>	1・前期	30	1			○	○			○
○			自由研究 I B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。</li> <li>・ 発表会（展示会）を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。</li> </ul>	1・後期	30	1			○	○			○
○			ファッションビジネス概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファッションビジネスの基礎知識の理解</li> <li>・ ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応</li> </ul>	1・後期	30	1	○			○			○
○			ファッションデザイン画 I	<p>ファッションデザイン画は、人体ポーズと衣服の関連を把握し、デザインの構造を明確に描くことが出来るよう指導に努め、基礎技法を中心に学生個人の感性を尊重しファッションデザイン画を表現することを目標とする。</p>	1・通年	60	2			○	○			○
○			クロッキー	<p>様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。</p>	1・通年	30	1			○	○			○

○		西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・ 通年	60	2	○			○		○	
○		服飾デザイン論Ⅰ	教育目標：服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定：色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やシルエットのとらえ方、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・ 通年	60	2	○			○		○	

(3/4)

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自製作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル（衣服）の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材（テキスタイルファブリック）を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ、理解を図る。	1・ 通年	60	2	○			○		○	

○		服飾手芸 I	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニク・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・前期	30	1				○	○				○
○		服装解剖学 I	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体（骨格）に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○					○
	○	英会話 I	英語の基本的な文法の復習と確認をするだけでなく、英語を使ってコミュニケーションが出来るようになる事を最終目標にすえた英語に親しむ実践的なコース運営を目指す。 グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通して、コミュニケーションには何が必要かを体感してもらいたい。ファッションを専攻している学生なのでファッションに関する語彙も導入する。	1・後期	30	1	○			○					○
○		キャリア開発 I	・人材育成のための講義と進級に関する講義で構成する。 ・新しい環境の中で社会人と学生の違いを認識し、将来の進路を考えるきっかけを作る。また、コミュニケーション能力を高め、自分という存在について考え成長できる『人間力』の育成を目指す。 ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。	1・通年	30	1	○			○					○

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義Ⅰ	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・通年	30	1	○			○			○	
○			校外研修Ⅰ	・都会生活から離れた「山荘」における団体生活の体験。 ・野外活動・体育活動など諸活動を通して指導力・協調の精神を養い、コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・個人相互およびクラス間・学年間の親睦を深める。	1・前期	30	1			○	○			○	
		○	コラボレーションa	・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動（コンテスト活動など）への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を高める。	1・後期	30	1			○	○			○	
合計				18科目											1,110単位時間(37単位)

## 卒業要件及び履修方法

## 授業期間等

単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	15週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2019年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			パターンメイキング論Ⅰ	・ 平面裁断・立体裁断（工業用ボディ使用）によるパターンメイキング理論を体系的に習得する。 ・ 量産を意識したアイテム・素材別の工業用パターンメイキングおよび縫製仕様、縫製法を習得する。	2・通年	60	2	○			○			○		
○			パターンメイキング演習 ドラフティングⅠ	・ 基本アイテムのグレーディング操作演習によりグレーディング理論の理解とパターン修正技術を習得する。 <パターンメイキング> 1, パターンメイキング導入、原型とボディ : 立体準備、立体裁断	2・通年	120	4		○		○				○	
○			パターンメイキング演習 ドレーピングⅠ	2, ブラウス・スカート : PM（平面裁断・立体裁断）、フルP、部分縫い、縫製工程・縫製仕様、実物製作、レポート 3, スーツ : PM（平面裁断・立体裁断）、フルP、部分縫い、縫製工程・縫製仕様、指図書、作業標準書、実物製作、レポート	2・通年	120	4		○		○				○	
○			パターンメイキング演習 ソーイングⅠ	4, バザー作品（文化祭） : デザイン、PM、フルP、部分縫い、縫製工程・縫製仕様、指図書、作業標準書、実物製作、価格設定、レポート（グループ製作） 5, ワンピースドレス（薄物作品） : PM（平面裁断・立体裁断）、縫製仕様・縫製工程、部分縫い、レポート	2・通年	120	4		○		○				○	
○			パターンメイキング演習 工業パターンⅠ	6, 修了制作・発表会 : デザイン、PM、フルP、部分縫い、縫製仕様・縫製工程、実物製作、レポート、発表会企画・演出 <グレーディング>	2・通年	120	4		○		○				○	
○			グレーディング	: 原型・スカート（タイト・Aライン・ベルト）ブラウス（身頃・袖・スタンドカラー・シャツカラー・フラットカラー）	2・通年	30	1			○	○				○	

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CADパターンメイキングⅠ	基本的なアパレルCADオペレーションをマスターすることを目標とする。囲み作図をCADで作成し、基本的な線の引き方を身につける。個人の作図をスキャナで入力し、入力したデータを基にCADで基本的なパターン修正、縫い代付け、パーツ情報の作成方法を身につける。	2・通年	60	2	○			○				
○			生産管理概論	アパレル産業の生産プロセスの基礎知識を理解する。Q(品質)C(原価)D(納期)のバランスを考慮し、個人制作的な考え方から、既製品製造における仕様や生産工程、設備、システム、情報の伝達方法を知り、アパレル生産関連業務に関わる基礎的な知識を身につけることを目標とする。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			量産技術実習Ⅰ	アパレル産業の生産プロセスに基づき、工業製品としての生産方法と管理活動について理解を深める。デザイン発想からパターン作成、ライン縫製、そして品質検査までを行い、シャツの量産をグループワークで実習する。品質(Q)・原価(C)・納期(D)の観点から体系的にアパレル生産を学び、生産活動の基礎知識習得が目標である。	2・後期	60	2			○	○			○	
○			ファッションデザイン画Ⅱ	衣服デザインや構造線を的確に描くことが出来るように表現力を伸ばす。各種画材を使用し、特徴のある素材表現の手法を習得する。学生個人の感性を尊重しオリジナルファッションデザイン画表現を目標とする。	2・前期	30	1			○	○		○		

○		服装解剖学Ⅱ	1年次で学んだ服装解剖学の基礎を発展させ、筋の構造を解剖学的に理解させる。さらに動態計測（石膏計測）実習により、衣服製作に必要な皮膚の運動量・変化を把握させ、計測結果を基に機能性大の衣服研究（デザイン）を行う。	2・後期	30	1	○			○		○	
○		アパレル素材論Ⅱ	素材の特性を最大限に引き出した完成度の高いアパレル製品を作るため、アパレル素材論Ⅰで学んだ事を基礎に、より深い専門知識を学習する。またその知識を企画・設計に生かすことを目標とする。	2・通年	60	2	○			○		○	

(3/8)

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッションビジネス論Ⅰ	ファッションビジネスの基礎知識の復習と現状の理解を深める。さらに、日本のファッション産業の構造の把握と世界のアパレル産業の現状を比較して、近未来のファッションビジネスの方向性を探る。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			コンピュータワーク(基礎)	衣服の構造を理解し、その視覚的伝達表現ツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身に着ける。アパレル生産における実務能力の習得、向上を目標とする。衣服製品図の製作を通してグラフィックソフトの基礎技法習得を目指す。	2・後期	30	1			○	○		○		
○			英会話Ⅰ	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に文法の復習と、口頭での運用力の強化を主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増やすこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。レベルは初級の中位から上位まで。	2・通年	60	2			○	○			○	



○		フランス語 I	フランス語を初めて学ぶ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単に日常的にかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニケーションをフランス語でできることを目指す。	2・通年	60	2				○	○		○	
○		中国語 I	発音の土台「ピンイン」から始め、難関の「四声」「変調」「巻き舌音」をマスターします。入門段階では、単語を蓄積しながら文型入り、実践練習で会話表現を覚えます。初級段階では、時制のニュアンス、意思の伝え方を学びます。中検準4級基準。準中級段階では、疑問表現を学ぶほか、物事の比較・類似・比喩表現についてトレーニングします。中検4級基準。	2・通年	60	2				○	○		○	
○		キャリア開発 II	学生が就職を志望する先に内定するために必要な「就職力」を講義＋実習を通して身につけさせる。	2・後期	30	1				○	○		○	○

(4/8)

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義 II	レギュラー授業で包括できない部分の専門知識、専門分野の講義、実技指導、実習を行う。 生産技術の専門性を高める。 業界や職務に関する理解を深め、就職への意識を高める。	2・通年	60	2	○			○			○	
○			校外研修 II	国内の工場、メーカーの見学を通し、生産の現状、物づくりに対する姿勢、品質向上の取り組みなどについて理解を深める。 美術鑑賞や能見学を通し、感性を磨き視野を広げる。	2・後期	30	1			○	○			○	
○			企業・学内研修 a	企業研修ではファッション産業界の各	2・後期	30	1			○	○			○	

○	企業・学内研修 b	分野において、職人として役立つ人材の育成と就職に向けての意識を高める。 企業研修に参加しない学生は学内研修を行い、ビジネス常識と専門分野の実務について学ぶ。	2・後期	30	1			○	○	○	
○	企業・学内研修 c		2・後期	30	1			○	○	○	
○	コラボレーション b		外部団体・企業等とのコラボレーション活動にグループで参加し、知識、技術の向上とともに社会人としてのキャリアアップを図る。 協業することで学生は自己の可能性を発見し、業務の進め方、プレゼンテーション方法を学び、視野を広げる手立てとする。	2・通年	30	1			○	○	○
学年合計		19科目	1,110単位時間(37単位)								

(5/8)

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	校内	校外	専任	兼任		
○			パターンメイキング論Ⅱ	平面裁断・立体的裁断によるパターンメイキングや工業パターンメイキング理論を理解し応用発展できる能力を養う。1・2年で習得した知識と技術を応用発展させ、機能服やニット作品、皮革作品などの細目から素材の特性を生かし、かつ生産効率を考え市場を意識した仕様・縫製方法を学ぶ。	3・通年	60	2	○		○			○		
○			パターンメイキング演習ドラフティングⅡ	スローパー 各種原型解説及び作成(パンツスローパー、ブランド原型)・裏付パンツ前あき部分縫い バザー作品(コート) バザー作品ドラフティング・コートドラフティング・2種ドレーピング・無飾りアウトポケット部分縫い	3・通年	150	5		○	○				○	



○		デザインパターン	デザイナーとパタンナーの仕事に近い形でトレーニングする授業。デザイン解釈～フルパターンの実践に近いパタンナーの仕事を実習。デザイナーが要求するデザインを実現させるため、個々に対話しながら良いパターン、パタンナーとは何か考察、考える力を習得することを目指し、パターンがデザインにおいていかに重要な役割か理解する。デザイン1、2と反復練習することで技術の向上を目指す。弊社ブランドの実際に使っているパターンも公開する。	3・前期	30	1				○	○							
○		CADパターンメイキングⅡ	アパレルCADを利用した演習を通し、合理的な考えで主にパターン展開を学ぶことを目標とする。CADパターンメイキングⅠ（基礎）に続き単機能に加え、高精度で効率の良い結果を実現させるため複合機能も活用する。また、並行して履修する「量産技術実習Ⅱ」とリンクさせ、生産用パターンに必要な要素の理解を深める。他、CADデータを利用した帳票類作成、CADグレーディングも含む。	3・通年	90	3	○				○							
○		量産技術実習Ⅱ	アパレル生産プロセスに基づき、企画した製品が生産されるまでの組織的な生産活動を体験することを目指す。グループを会社組織として分業体制で設立し、品質（Q）・コスト（C）・納期（D）を実現させながら、メーカー側の製品企画・工場側の製造企画に始まり、生産活動を通して「モノ」「情報」の流れを掴む。また、並行して履修する「CADパターンメイキングⅡ」とリンクさせ、生産に必要な情報の相互理解を図る。	3・後期	60	2					○	○					○	
○		工業ニット演習	・総合的なニットの基礎知識を習得し、ニットアパレルを理解するために必要な商品知識を得る。 ・カットソー、ニット（横物）における技術の習得と共に（横物、丸物）の指示書作成迄の知識を理解する。	3・通年	60	2					○	○						○

	○	縫製研究	「ジャケット」シングル二つ釦ノッチ ドラペルの縫製を1950年代からの Tailor & Dressmakingの事実及び技術 を研究また実習し、そこから新しい知 識や見解を得て、それを現在主流の量 産品の縫製に融合させ、高品質化を 図れる有益な能力を取得することを目指 す。	3 ・ 前期	30	1				○	○		○		
--	---	------	---	--------------	----	---	--	--	--	---	---	--	---	--	--

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		企画・デザイン研究	1.主張性のあるマップ作成 / デザインイメージを具体化し、転換・展開する。マップやレジメの作成をする。 2.商品力のあるデザイン(商品)展開 / 市場調査から売れ筋商品を把握し、自社の商品展開に生かす。スピーディーな商品企画・展開を考える。 3.グループ製作 / 仮想ブランドを設定し、デザインの方向性・商品化の可能性を探る。コンセプト・テーマ・商品構成・価格・店舗・など総合的に研究する。 発表を通じ提案力を身につける。	3・前期	30	1			○	○		○		
	○		工場生産研究	縫製工場の生産方法及び工程を理解させる。工場見学により、操業している縫製工場のテクニックを学ぶ。	3・前期	30	1			○	○			○	
	○		生産管理各論 品質管理	アパレル・小売企業が求める審美性、コスト、納期と消費者が求める品質を備えた製品を生産するために必要な品質管理について基本的な知識と、実際の現場を踏まえた情報を合わせ、より現実的な知識と技術を学ぶ。	3・後期	30	1			○	○			○	
	○		英会話Ⅱ	英会話Ⅰを履修した学生対象のコースで、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。文法中心ではなく、体験的なクラス運営を試みる。	3・通年	60	2			○	○			○	



## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科) 2019年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	校内	校外	専任	兼任	
	○		中国語Ⅱ	応用力養成：疑問詞を用いて問答式の促進を行います；夫々に合う日本語例文を示し、中国語への転換及び会話練習をします；中検2級基準。 会話練習：日常シーンに即した語彙、及び衣食住行等の中国文化と外国文化の結びつき方を習います；社会環境的なムードによって生じた異なる言語表現を習います。 服装関連：ファッション関連用語・工場用語に関する中国語語彙を習います。	3・通年	60	2			○	○		○	
	○		特別講義Ⅲ	レギュラー授業で包括できない部分の専門関連、専門分野の知識習得を目的とする。実社会の動向、現状、情報、未来への展望や、様々な関わりに対処する為の考え方、アドバイスをファッション業界の講師による講義を聞き知識を習得する。	3・通年	60	2	○			○			○
		○	コラボレーション。	アパレル企業からの提案を元に企画から完成まで行う。企業からの協力により製品作りを体験し、その経緯から実社会での実務経験を体感する。レギュラー授業では学ぶことが出来ない経験を積む。	3・通年	30	1			○	○			○
	○		卒業研究・創作	3年間の集大成として最終課題にふさわしいテーマを個々に設定し、オリジナル素材作りに始まり習得したテクニックを駆使し制作する。アクセサリからヘア・メイク、などに至るまで総合的にデザインを生かしてコーディネートし、卒業制作ショーで発表する。	3・通年	120	4			○	○			○
学科合計				14科目	1,110単位時間(37単位)									
総合計				51科目	3,330単位時間(111単位)									



単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

---

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CADグレーディング	アパレルCADグレーディングの概要の理解と基本的操作の修得。簡単なアイテムをCADグレーディング出来るレベルまでを目標とする。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			パターンメイキングⅡ	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業パターン理論・平面作図・立体裁断の応用発展できる能力を養う。</li> <li>素材と仕様の適合、カバー率、加縫性を考慮した生産性の高いパターンメイキング・縫製技術の習得を目指す。</li> </ul> 1. 原型 タイト原型からブランド原型への展開 タイト原型を利用したジャケットドラフティング 2. コート（バザー） 量産技術実習・CADパターンメイキング各教科と連携した、文化祭バザーコートのグループ製作 分業生産に必要な各種帳票類の作成 コンピュータワーク（生産管理）と連携 3. ジャケット 市場を意識した各自企画デザインによるジャケットの作成 4 面構成ジャケットドラフティング ・ 3 面構成ジャケットドラフティング	3・通年	120	4			○	○		○		
○			パターンメイキング演習 工業パターンⅡ	4. パンツ 市場を意識した各自企画デザインによるパンツの作成 パンツ原型からの平面展開 5. コート 市場を意識した各自企画デザインによるコートの作成 ラグランスリーブコートドラフティング	3・通年	120	4			○	○		○		
○			パターンメイキング演習 ソーイングⅡ	4. パンツ 市場を意識した各自企画デザインによるパンツの作成 パンツ原型からの平面展開 5. コート 市場を意識した各自企画デザインによるコートの作成 ラグランスリーブコートドラフティング	3・通年	60	2			○	○		○		

○		生産実習	他者が作成したパターンを使用した縫製実習を行うことにより、狙いの品質を実現するための情報伝達の重要性を、体験を踏まえて理解する。	3・後期	30	1				○	○	○		
○		ニット生産実習	丸編みカットソーの縫製とパターンの基礎的知識と応用。 美しいシルエットを作る立体裁断のパターンと実践指導。	3・通年	60	2				○	○	○		

(2/5)

### 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CADパターンメイキングⅡ	アパレル業界の企画【設計】において必須であるCADシステムを利用し、基本を学びながら考え方・手法・方法・管理の理解を深めつつCAD操作が出来るようになる。	3・通年	60	2				○	○	○	○	
○			量産技術実習Ⅱ	生産プロセス（企画デザイン～パターンメイキング～生産準備工程～縫製まで）の実務を通し、生産管理各論で学んだ理論の理解を深める。また原価・品質・納期・数量の管理を行い、製品の販売までを実践する	3・前期	60	2				○	○	○		
○			縫製研究	「ジャケット」シングル二つ釦ノッチドラペルの縫製を1950年代からのTailor & Dressmakingの事実及び技術を研究また実習し、そこから新しい知識や見解を得て、それを現在主流の量産品の縫製に融合させ、高品質化を図れる有益な能力を取得することを目指す。	3・前期	30	1				○	○	○		



○		生産管理各論 生産企画	<p>アパレル製品を生産する上で必要となる業務について、メーカーにおける生産関連担当者の職域を中心に学ぶ。商品企画段階で設定される、品質(Q)・原価(C)・納期(D)を高水準で成立させることを目標に、生産実務に至る準備段階から事後処理までを体系的に理解する。グローバル化に伴う海外生産の拡大も視野に入れ、今後のアパレル生産の行方を考慮の上、各自でアパレル製品の生産企画を立案する。</p>	3・通年	60	2	○			○		○		
○		生産管理各論 製造企画	<p>アパレル製造は、グローバルサプライチェーンの中で各国地域がその工程を担っている。この現状を把握し、アパレル製造の機能と製造方法を理解する。また、日本のアパレル生産の現状を理解し、今後の取り組み課題について各自考察する。工業製品であるアパレルの製造に必要な機能と製造方法、管理方法を概念的に理解出来る程度。</p>	3・後期	30	1	○			○		○		
○		生産管理各論 品質管理	<p>アパレル・小売企業が求める審美性、コスト、納期と消費者が求める品質を備えた製品を生産するために必要な品質管理について基本的な知識と、実際の現場を踏まえた情報を合わせ、より現実的な知識と技術を学ぶ。</p>	3・後期	30	1	○			○			○	
○		コンピュータ ワーク(生産管理)	<p>応用的なアパレルCADの使用方法和、アパレルCADを中心とした様々なソフトウェアを活用し、生産に必要な帳票作りを身に付けることを目標とする。同じ帳票類を様々な方法で作成することにより、ソフトウェアのメリット、デメリットを認識する。3次元仮想ボディデータ作成や、仮想着装シミュレーションなど最先端のCADオペレーションを体験する。</p>	3・前期	30	1				○	○		○	

○			<p>様々な目的・用途に応じたソフトの利用が出来ること、表現手法に広がりを持たせ、かつクオリティーを高めることを目的とする。</p> <p>他学科の課題制作が自由に行えるように内容を構成し基礎を固めていく。</p> <p>ドロー系ソフト/Illustratorの基礎 ビジネスソフト/Excel・PowerPointの基本操作</p>	3 ・ 通 年	60	2					○	○		○			
---	--	--	---	------------------	----	---	--	--	--	--	---	---	--	---	--	--	--

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル貿易実務	・アパレル生産、特に海外との取引事情、流通や貿易の流れ、それに付随する経済・社会情勢などの環境についての概略を理解する。 ・アパレルメーカーのスタッフとして業務遂行可能な貿易実務の基礎知識を習得し、関連用語を理解する。	3・後期	30	1	○			○		○		○
○			マテリアル論	素材の理解を確実なものにする為、1年次および2年次で修得したアパレル素材論Ⅰ・Ⅱの復習を兼ね主に服造の細目をメインにし基本的な力と応用力を養わせ就職を前提にした素材の理解に結びつける。	3・前期	30	1	○			○		○		
○			英会話Ⅱ	英会話Ⅰを履修した学生対象のコースで、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。文法中心ではなく、体験的なクラス運営を試みる。	3・通年	60	2	○			○			○	
○			フランス語Ⅱ	フランス語を1年学んだ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単に日常的にかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニケーションをフランス語でできることを目指す。	3・通年	60	2	○			○		○		

○	中国語Ⅱ	<p>応用力養成：疑問詞を用いて問答式の促進を行います；夫々に合う日本語例文を示し、中国語への転換及び会話練習をします。中検2級基準。</p> <p>会話練習：日常シーンに即した語彙、及び衣食住行等の中国文化と外国文化の結びつき方を習います。社会環境的なムードによって生じた異なる言語表現を習います。</p> <p>服装関連：ファッション関連用語・工場用語に関する中国語語彙を習います。</p>	3・ 通 年	60	2	○	○	○	○			
○	特別講義Ⅲ	<p>アパレルの生産プロセス全般についてさらに専門知識を深める。</p>	3・ 通 年	30	1	○	○	○				



## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 アパレル技術科生産システムコース) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	コレボレーションc	アパレル企業協力のもと、製品としてのモノ造りの仕組みを学ぶ。必要に応じ、デザイナーからのデザイン指導・パタンナーからのパターン指導や縫製チェックなどを行う。実務としての作業を経験する。	3・通年	30	1			○	○		○		
○			卒業研究・創作	・3年間の集大成として研究テーマを決め、レポート作成と実物作品の製作をする。 ・プレゼンテーションと展示形式で発表を行う。	3・通年	120	4			○	○		○		
合計				20科目				1,110単位時間(37単位)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること								1学年の学期区分				前・後期			
								1学期の授業期間				15週			
(留意事項)															
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。															
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。															